

分類名 [土壌肥料]

1 被覆尿素肥料の全量基肥施肥法（追補）

農業センター

1) 取り上げた理由

普及に移す技術71号で肥効調節型肥料の利用で追肥省略が可能となり、収量も慣行栽培と同等以上が期待できることを明らかにした。今回、被覆尿素配合の新肥料について生育・収量等を検討した結果、使用可能と判断されたので参考資料の追補とする。

2) 参考資料

(1) 次の肥料を基肥で施肥することにより追肥省略が可能となり、慣行並の収量が期待できる。

(2) 肥料名：エムコートS複合肥料（14-18-18）

緩効性窒素60%（エムコート36%，スーパーIB24%）

被覆尿素であるエムコートに速効性肥料と緩効性のスーパーIBが組み合わせた複合肥料である。

(3) 施肥法：側条施肥法とする。

(4) 施肥量：慣行の基肥+追肥合計窒素量を基肥に施用する。

(5) 本肥料を用いたコスト収支は普通化成肥料利用体系とほぼ同等である。

3) 対象地域等

ひとめぼれ栽培地帯

4) 特に留意すべき事項

(1) 基肥は成熟期まで影響するので、施肥量は慣行の基肥+追肥合計窒素量を超えない量とする。

5) 背景となった主要な試験研究

(1) 研究機関及び担当部科名 宮城県農業センター土壌肥料部作物栄養科

(2) 研究課題名及び研究期間 新資材・肥料の特性と肥効に関する試験
ひとめぼれに対するエムコートS複合肥料の肥効確認（平成6, 7, 9年）

(3) 参考データ

表-1 窒素施肥量 (kg/a) ・生育 (平成6, 7, 9年平均)

区名	基肥 追肥			稈長 cm	茎数 (本/m ²)		
	幼形	減分			最分期	幼形期	成熟期
対照化成	0.5	0.1	0.1	87.6	738	657	494
エコート	0.7	-	-	87.8	714	637	489

注) (1) 移植方法 側条施肥法 (2) 対照化成 基肥: 塩加磷安284号, 追肥: NKC68号

表-2 収量及び収量構成要素 (平成6, 7, 9年平均)

区名	収量 kg/a	収量 比%	穂数 本/m ²	籾数 千粒/m ²	一穂 籾数	千粒 重 g	登熟 歩合%	玄米 窒素%
対照化成	57.0	100	494	28.3	57.7	23.3	86	1.14
エコート	57.2	100	489	29.2	59.8	22.8	86	1.10

表-3 窒素吸収量 (g/m²) (平成6, 7, 9年平均)

区名	6/10	幼形期	穂揃期	成熟期
対照化成	1.0	5.6	8.0	10.2
エコート	1.0	5.9	7.2	10.1

表-4 コスト試算結果

区名	米代金 ①	追肥労賃 ②	肥料代金 ③	コスト収支 ①-②-③
対照化成	161,500	955	3,873	156,672
エコート	162,067	0	5,000	157,067

塩加磷安284号; 1500円/20kg, NK化成68号; 1180円/20kg, エコート複合肥料; 2000円/20kg
追肥労働時間, 労賃はH8農林統計速報値による

(4) 発表論文等 特になし